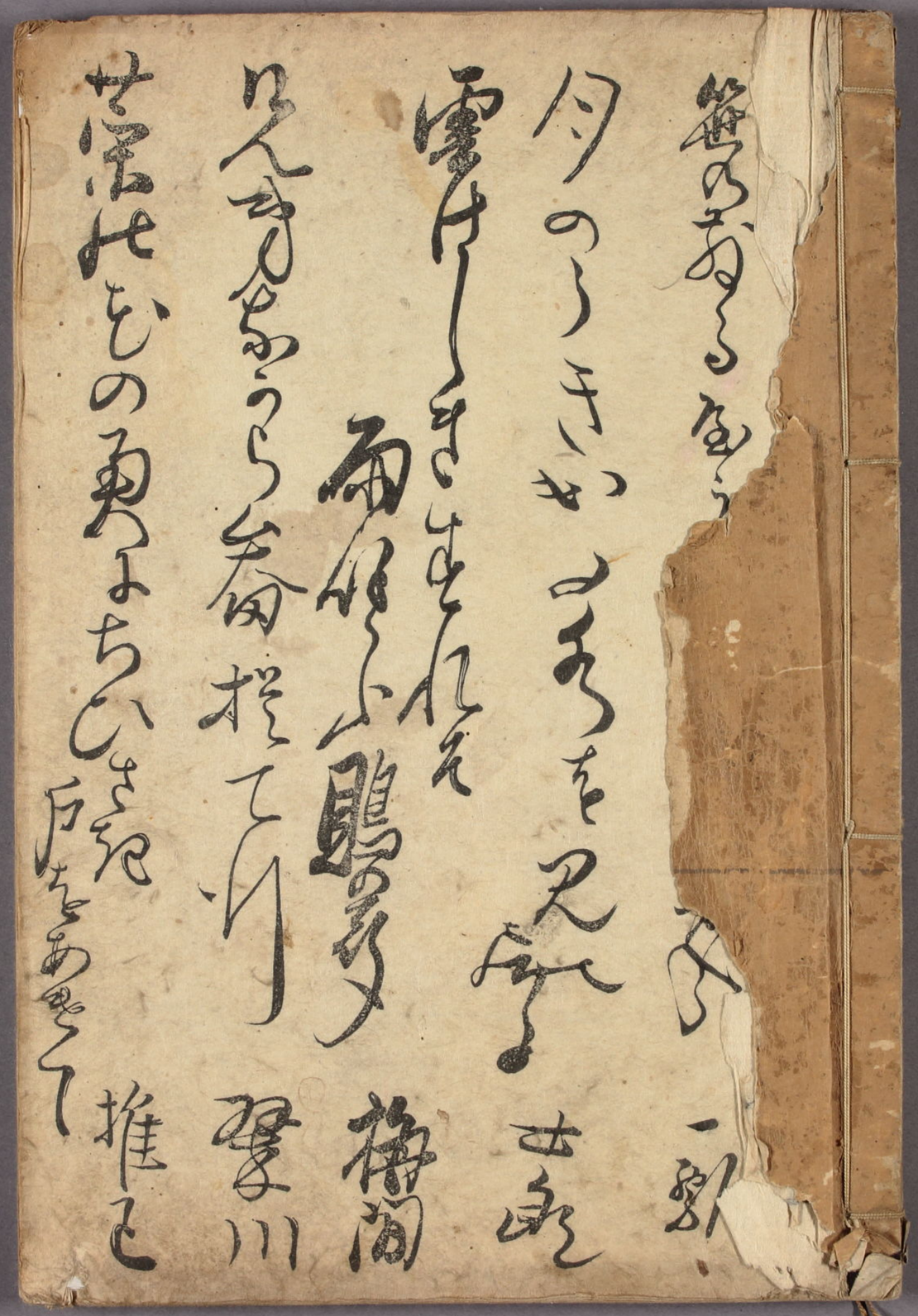

一部

梅間

翠川

推

[illegible] 一部

月のうきさを見る　世永

雲はなれぬ[illegible]

雨はれぬ鶯の　梅間

[illegible]人[illegible]の春　翠川

[illegible]　推し

[illegible]

朝ぎよ繩とりて桜屋
山伏の来るを待
小野の一夏ゆふ
雉子の鳴
稲荷山
夕ぎり
桜花
ながめやらるる
雁
ゆふ
時ては
里の
ほのぼのと
有明

志ゝゝくらい人家
ふつに
今朝八月
をゝゝにかゝる
新ら
ゆゝゝ

ぬけるゝ竿
又ゝる
雁の上
雁
ぬる
裏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白菊は春迄春迄　百明

[illegible]

[illegible]　武信

[illegible]

小三口の才年[illegible]　樗堂

馬の尾をむすびて笠に飾
ばかりなる風流
園名所 天地
上方名所 [illegible] 新世話九
[illegible] 京小鍛冶 [illegible]
酒おけう [illegible]
[illegible]

[illegible]
煙草 [illegible] 紀寺遊 [illegible]
茅の [illegible] 四季
[illegible]

一瓢　釋氏号知足坊亦雲耕庵亦橘中居住于江戸谷中本行寺

士朗　井上氏号朱樹亦琵琶園俗称專庵尾州名古屋人七十有余歳而没于時文化九壬申　九月十六日

梅間　梅間氏名登字子龍号張古俗称半十郎尾州名古屋人居于梅花園中

翠川　瀬古氏号花鳥亭俗称喜左衛門住勢州松坂

推己　浅原氏通称半十郎住于勢州松坂

椿堂　唐田氏号東竹菴俗称長兵衛住于勢州山田

五雄　号萩亭俗称錺屋文助尾州名古屋人

桃林　勢州古市人

雀鳴　松田氏名幸慶号西竹庵俗称與吉勢州山田祠官

省我　勢州山田御師

曉浦　勢州人

文常　姓源辻氏名用信字府留号莫亭俗称平右衛門江州堅田處士

甘谷　号丹頂林亦菅菰庵加州金澤人

雪雄　号梅室加州人来居于平安

魯隱　山形氏名長康号縄海子俗称用助住于浪花今橋通

長齋　姓七五三名公濟字廷美号抑壺俗称作左衛門住于浪花淀屋橋南涯

鷲雪　俗称茨木屋和助住于浪花心齋橋上人町北

朱彦　長谷氏号白雀園俗称朱屋彦太郎住于浪花堂嶋濱三丁目

桐栖　仁木氏号五彩堂通称竹輔浪花人居于摂州兵庫

脱員　播州人

玉屑　釋氏号栗本住于播州朱田神宮寺

化貝　播州人

百明　[illegible]

武陵　号杜陰通俗西尾吉四郎住于丹州篠山城西大山

帚道　備後人

樗堂　栗田氏号息隱亦二疊庵隊列松山人遊于藝州御手洗没于時文化十一甲戌八月二十一日

鹿門　俗称松嶋屋常十郎藝州御手洗人

弋坡　竹原氏藝州御手洗人

篤老　飯田氏号篤老園俗称宅藏居于藝州廣嶋

羅風　俗称油屋仁右衛門住于長門赤間関

了國　齋藤氏俗称東四郎豊前小倉藩士

自由　大野氏名氣風筑前福岡藩士

凡坡　曽我氏称養庵住于筑前波加多

四軒　田口氏俗称儀兵衛住于筑前福岡

葵亭　姓佐藤俗称藤屋勝右衛門住于豊後日田隈町

幽嘯　越後長岡人来居于肥前長崎

葵亭

よろつの病こそふかたちもなく
やうしくなくなりぬるを　成美

露はらをもてなつるふやあ月雨　成美

うつみ火を鼻て見るひとわうれ　袁丁

茶はくけや手貢を見て花盛　壽翁

里のこやや正月ふけやうれ　老鴉

転れ毒そうるやうなる月夜か　心非

ひろ毒て寒菜乱し古茶中　車西

うつ乗すけめてくるし矢蕾し　夯貨

寒のやし松殻をいかを花ふ咲　寺静

法油まてしを注て朱く点や雀はす　道彦
花ふさくかゝれと面れさそうしき　百之
三いろとまつくる夜といちりあるわ　一峩
人並ふ朔日をまるる初市の糸　周化
遠の雲のめとゝ〳〵芋茎花市堂　梅陽
白霧や十日ふ一度掃ふすれ　左民
さの蟬の目とちりぬるは木　巴濤
連立て浮るる沼るる鹿のゝ乳　秋耳
亦魚や五歩おとあらて法れし　對竹
ものふ倦て雲夜を取く眼鏡ふ　諫圃

はるれ雪部はき出て降らせる架　文屋
五月雨やゝわゝゝ嵐れちち　久藏
橋の夢てさるる夜月　芝山
ゝつる花枝をおとゝ夢ふちるやら　鈍齋
千月れ日ふ橋ゝふ冰田れ橋　卓橋
蛙釜のはるまや方吹ゝふゝ　長閑
みしの夜ゝ移れ庸ふ掛まゝ　永矢
まゝ臭き雀の洋ふ蓼れ面　太鈴
花ゝゝの梨地獄れ使れ面し　仙骨
吉氣ゝゝ梅ゝゝ梅の氣　鬼洞

行秋を方てゝ秋をのこすはまとゝぎす　寥松

菜の花や月は東に日は西に　一阿

山と焼くうしろ〻ゝ雪れなりわれ　雨籟

ほろ〻ゝや牡丹の花をたのもしく　孤山

かたをみの芦ちよいと中国川　蕉雨

おもひをしして煙もてなせ蓼の花　行馬

夢今宵の楚明れ新涼の風　午心

夕の秋やゆうかなしき人長寿　明良

今世自や拍子ぬけいとの浪　可賛

夢ふけぬ乳　魚れ影　行妓

秋さくや宮を建る浦れ人　完来

きわしす咲ものとて植し小菊の乳　詠帰

切金弱て秋ひとみ井蓬　護物

もの寂さにふけて淋や浦の夕方　芳洲

きの雲や笹ふまてたの花ゆく　胡準

夢る〻方てたのむ未陰や立の月　一蕙

うらぶれ見ん乳ちる曲うら　其堂

ちる花をたもたるものを降こゆき　驚雪

千月てゆをくさきの中をれ家　邪年

梅の実れ蜂ふくくれ雪ゆつし　宗瑞

知足坊商中

清月夜よ　糸堂
春風や閑れを形の橋ふとゝ　蛙足
さゝ乳の夜ちうちきれてさゝ面ふく　廿年　雀人
景清も切ひけり五條坂　亀一
袖まゝ辻四角な袖を花の中　和扇
姫牛ちゝ大きいう我いかり　徐柳
夜ふ曲てゝ紅ちゝけ月　省己
朱袋たくや梅れ病のう一　徐風
雲拍をなめ〻ゝ新菜けふ　春成

文月ちゝやさまとてちさく生る　有鱗

、

蟹ふ目のあるふふけや五月雨　國村
黄昏や花れむうひふ待乳山　斗月
夏の雲や嘘の春てゝひつゝむ　東雀
夏れ穂ふ膳たゝてやう〻新蕎　朝南
猫の恋ちゝ居ふかゝをう〻ち　梅仁
ふふ入し傍をこゝて花冬ふる　其杯
里雲雀の方を百ゝ多ゝ好やふ　雅長
松風を袂ふいきてんうもう〻　青涼

はなのいてゝ不二ゝ[illegible]ゝむ蓬ゝ　小鮎　可良久

草ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　立渡

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　也好

山城

夕陽ゝ引[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　蒼虬

むく起や稲[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　茂良

日表をみれゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　土卯

さゝ浪れ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　其成

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　月居

大和

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　空阿

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　拾葉

河内

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　来紀

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　宝雨

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　花史

和泉

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　喜齋

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　皆笛

摂津

とゝのらぬ夷ふ海老汲むみちとゝ　万和

春咲や若とる傳を浮世ゝて　木老

十月は花の下なる架　炭一駄　井眉

山堂の押へはもるよ雪ふら　尺艾

なのもかのやゝ雪ゝ降るまはつ魅　三津人

雪ふ見きてやらゝて炭あこの　星譜

咲日このら芋あゝて見ぬ牡丹　奇渕

伊賀

隆夢は達摘てゐるしられ　猪素

まゝ冬やまゝ雪見は松の色　士得

伊勢

浮ゝやゝ人の屋は景ゝもきき　丘高

大年や岩撫て居る相撲とり　耕圃

雪分は松のはゝらも雪ふ　周終

尾張

夜通ゝ降ゝ雪の年の雪　竹有

芋は戸ふ見通手月ゝもゝ雪　少汝

山の月ゝのまゝて来て庵の角　鹿野

植る間ゝはやゝ入れし竹の蔭　東陽

祇園ゝやゝ人は心ゝ花ゝ　遥人

菊を焚るを尋て唐の花鏡　杜堂

死殺るる人れ多さよ盗れ月　岳軒

三河

月れ出てうそうるや海の ゆるる而　卓池

山口や林を去る亀れ栗ついの　岱呂

ろ蓋の柳ちり直すうすき　棋老

蒙豆や二月れ多蒙よ京を形　秋擧

遠江

るちるきを尋てきよ拾て盗れ月　木甫

梅を殺〳〵何をきるまを菜庵下　露岳

咲く花を志向ふこくや鯛の鱗　三枝

雛庵やまきり移て出る二日月　露喬

駿河

夕虹や汐家れ合歓のさわ立ちき　畫牛

花をる拾をわよゆき二日　石雅

甲斐

篭出り梅潜るう月て永れ　可都里

寺冬やそ青れ宿を海松海老　有斐

梅梅拾ら春ま此の何を上なる　漫々

尼寺れ立ちちわ蓮れ花　童行

拾ひあつめる毎ふ遠ふ夜や長れ　百二

なのさ乳しそ鞋賣とや　梅まく　一作

爾ま世ちまき乳ま蒔て之枝の月　真恒

長れ夜めはるやまき松れ身　草九

蓼の法よい好れ乳れそわかまる　大馬

掛てある大ぢ分やうふ法ふる　草烏

法ふ勇を稔ふ法ふ巨燒ふ乳　嵐外

伊豆

涼ふ臺相なるかを方ふふ系　雪髭

相撲

永をわ世ゆを　わはやさまて更衣　葛三

浦れ山ゆ屋を枝のうしろつき　玉珂

蓼ふ裏ふ不ふふ見せふそ葉れ花　澧水

みの虫を行のそふこつま花のたる　洞く

用をふるふ法みふ蒔や花れ波　うつほ

るきしと詠ひきふひや春の雲　雄啄

安房

無れ蓼の法やきやうも四月ふ　杉長

ゆふふを行るれあって無れちる　其文

美しく為ぬをたふふそふをつたる　邵賀

上総

海ちかくさくらふるやゆきのうら　三化

おもれ宮の松陰隠棲さまたるあり　里丸

象潟や蓮ふれふねを漕の苔　白老

下総

ふと見て深つて見るを春田かな　金堤

苗代の玉のやうなる月夜かな　雀老

さわ蟹あり盃れを外しや宇治拾遺　雨塘

竹の月もや鮫青の来るころ　尼素月

鮫ぬを尾ひまもちめたる鮫　北尼

加茂川の流れ　うまるとやいとや心を　素廸

やまかるまと行とうまるけるの鹿の影　青洒

手の今年人れうろやきりしす　維平

さね上る羽織れ玉をうめの花　蒼峨

なのまとわて宮ふ遠ろ白ろ鷺の声　青岱

軍こる皆戸うらんれ来るうして　李峰

花さうわ生まこうらは濡ぬを春　此蘭

ものこるるおとよ雲ふ呼る月　晃齋

拙ふる正月さきん鮫鮫して　茶彦

常陸

いちはつの花ふみ迷ひやうちり二日月　李尺

葛は芽のうらもきものに猫の恋　柳磨

花のつぼ殿舎ゝ侍るをまつる小　杜年

松ほくもきらく咲やもれ花　祇鳴

夫うめ菓子拾てもすまるる　松江

近江

このうつよなやゑんとうに八重葉　申齋

月新の志みむ松れちらす乳　千影

花の下人をひきわ拾らまに　宇浮

ゑ〻ぬ〻ちく洗ゝ拾るや是袋れ砂　班車

温泉のもち湯れ入ちりの田ゐれ　烏頂

あら寒や吟雪れ中を寄まる　志宇

咲やすき花やちらしと青すき　士明

名月の白はれるるるるこう形　于當

美濃

燈ちきし一ちる鶴の白れう乳　千阿

見西のちきゝれ水ゝれ枯尾花　草人

飛弾

吟蛙人れこるを拾ゝくして　儲史

二度之安抜の出ゝとそ秋ゝき　乙齊

信濃

蓬て起て手拍うすしやそ彩の秋　素檠

休まする馬れ面まて葉のて色　武日

我宮のまるたた掃きたつの雪　若入

涅槃像鉢見ておそ良まなめ　一茶

上野

芋れこそうきませる鶏の那　蘿月

人侍のまてけやはるれ月　柏翁

蕎栗やうえこれはのいさしみ　阿兮

陽すてを畑りや鶏ゆと梨　碓令

蕎子よはまこうせんこうこう、　鹿太

下野

むこうひやや山根をもる雨れる　魚とき

柚の花やひとつ咲てきもの数　北岱

いつのまに実ゆまちしそ女郎花　雄尾

陸奥

このゆうちちやされて咲やや梅　午角

ゆう雑を本ゆるれてをこすめ　冥く

夕和紫赤きまきもるる色　素卿

梅梅巡さ木うこれて見ゆるく　雄渕

寒気を一日毎に加ふるかな　日人

てまさに春を待ちや豆腐串　雨考

啼きもれ見えて歩いや磯の人　沾橋

藤さ門の梅潮うてもとめ屋　與人

新月てうれ花梅を活うう蔡　杖夫

あ春まさて伸上るもう春れ月　海湛

位ふるまおやさ春れ八重葎　布席

あこうもあて咲るしう苦れ花　し二

出羽

芋を掘る人を仙も萩すき　野柘

五瓢

豆莢

巴陵

春哉

蟻行

加賀

白鱗

振こ

春里出て奇まむ世てるる小庵ふ

る掘数ひひつこあて見る掘うれ

六月を春て掘うもれ面

若狭

見るをあつて春ま時て春るるる

みしの花やさしかれ世日わと

越前

麦ちうめ星とをいそ麦屋子

蛙来ねそ人ち庵の小菜畠

うれ花のかゝ掃はきあるかな　眉山

稚ひとゝ能めてゝきし命かな　音人

をみなへし名のるれば咲るかな　鹿古

能登

夏れ日を高くあるくなりて鳴雀　晩頼

越中

江戸のさくら大鯛くらふしかな　乾夫

なのるとけれなれうれ杜若　處白

毎人よりかゝるこゝろかな　白年

海地の鯉をとゝのへなきまゝ　関蘿

蕨入れ煙りなのうめるかな　虚白

青葉こゝろの色はこゝろの奥歯を　素撲

越後

人すれなれそこの手はたらく　石海

海苔煮の汁をこゝろやつの香　史千

如月や人よりも人まる赤香　篁永

笠ゝ山葉ゝとゝんん多六十　竹星

更科の月や笠あるこゝろ　手眉

佐渡

あるゝの吹をるもかな不破の関　文雄

うふかき見れば軒うくまなく霧みちわ　淇行

丹波

きみとれ入かゆまを行の雲　白路

ものいふそはやゝ秋の日も木槿ちる　滄洲

丹後

秋きみれ中まの日永きし　老てうれ　蕪良

そるの雲を降るものとまわ　万籟

但馬

うら社の自まいま雲はきりしす　菊葊

この山よりはや花のよう登山　尚古

因幡

移ゆくてうふしうまれう　李謙

住まつまし人のさそひて帰る　雷師

伯耆

むしゆるあらさまてあるる音　豊明

琴弾て人はけるやとの雲　沾雪

出雲

陽炎よ流て出しうれ菜汁ぶ　冬曠

蓬生よ蚤見入うり雲れ峯　花叔

石見

霧はれて雲ぬけ出るかの法さうの風　古径

詠るとき秋の夜ともすみわ　露月

播磨

産てゐるやかの葉の葉をまわして　木海

遠通る海の鹿さやこうま尾花　田實

美作

正月を奇麗るさくさうの姿　亀年

夫の姿はものよりまぬ情ひ　月磨

備前

さら梅のちるやの寒の星ひかり　素江

備中

義出はの巣をはみ海すの夢はの木ひ　閑齋

備後

高をり戸のひかるうるうる花さうる　喜林

安藝

咲ひてをの女郎の名もちるうるもうわ　玄鮭

花咲ひて庭を古はの百さうし　竹葉

周防

美竹よりをを沒よくちるわ　一葉

口癖の長い中さうむしの年　馬未

ちとを積みて星さきつゐるひとわらび　青海

淡路

雲れ吟るちまり　松れ下ちつく　烏秋

ちるの夜のまちをみるるみる嘉そり　青城

阿波

矢ちらす吟るやちまれ淡路の島　草伯

あちらしきをを吟るうねと吟る　土芳

讃岐

梅吟て讃戸の通動や笑俵　南之

ちつのされあまりて花のちれるは　梅堂

伊豫

青ちて巨燈を出ちう福沸　石門

海山を飾して春る国府うれ　吳天

土佐

灌仏やそしも一夏ん咲ちあて　瀾江

唐ちちの杉ちう二百ちちせ紙ぶ　松青

筑前

湖茅ちふ高うしちふ清ちぶ　五朗

ち茅や蕨蚊ちきれ涓ちちん　康哉

筑後

畠ずゑ花ちるもの哀を百　文角

豊前

きれり裏山里や　猪田麦　北溟

さみだれや佐賀のうら船流れと　木父

峯の雲蓮華ちるもの　石亭

豊後

山伏の宿を鞍掛ふる　月化

蛙より哀なるひよ鳥くゝ　有篁

肥前

枯尾花ひかるを折まるこの手柏　菊也

炉開て一日をもるまさ　指ゝ　祥未

星れ庵をもるの行燈のあるもの　鞍風

肥後

あをゝふゝ新ふゝ物の吹重ゝ　岫丸

猿蓑ゝ猿ゝ物ゝはゝ　柳可　一巣

日向

ゝゝを出ゝは少れゝ安ゝ人ゝの蘇　真彦

薩摩

青梅ゝ出ゝゝ　柳ゝ　青梁

ゝ仏ゝ後ゝ出ゝゝ中ゝ月　琴渕

壹岐

川風にすゞひころや松の沖き　三千雄

對馬

影さへぬ影のやすさや庵の月　戯蝶

去年みたる世の物見塚に旅寝もし

信濃の一茶がたぬきの夜話といふも

まるひよ絵ひよつ神ゝ色清き書か　一茶

ちまきしみちぬきれのそつに　一瓢

大学鞋小学鞋足にて通見て　、

一番ふねふそるるふち祢こ　茶

あつき火にそ手の名月ある名月そ　、

芋喰ふ見えて清代を長眉の　瓢

彼岸経ちらしさを時雨弁て　、

芋の薄ゝ葉にきゝむ望つち　茶

あきの本の旅方く日とていふしや　瓢

子えそのかて落くさくく薮入　茶

留守しと隣るゆる黄蘗ち　瓢

ちらるまなるちとうまる山の圖　茶

恭年と天下の草の咲くちて　瓢

三百店も屯の月夜られ　茶

うそ寒の腰の手拭の紫頭巾　飄

ちちはは法度とふまもる　小穀　菜

花の跡こゝろまとゝうつ　隅田川　飄

寒てまるるまいの其角こう　菜

下略

郊白れ九いそそそて寒いやう　一飄

二軒もやいよ咲る山茶花　一菜

うんも屑こゝろ事とまり水川堀て、

法ゝわ野ひの酒五百石　飄

隆達のけ〻もし林の月、

おもり法度れ辻義立札　菜

和ゝし和ゝ吉野の里一緒うるゝ、

るゝ和ゝ十ゝそゝ目ゝまうゝて　飄

俗ゝのゝこゝ花や法ゝ〻ん　菜

う月ハ日ゝを利ゝゝ日を　飄

ゝ情ゝ和ゝまゝしゝきず　菜

膳所の生河ゝ義ひをいさ　飄

ゝ事ゝの京紙ゝ定あけて　菜

ひのゝもゝまゝや妹のゝ歌　飄

うす義うこのまゝれ宵風ゝ　菜

花のたまとれすや焦てを　飄

もゝもゝの足利流を任なして　茶

茗荷利といつくめてこうろう　飄

石畳

草庵四時

やまたのむしのらくら柳うれ　一飄

銭も生てもすしてもすし　振やうす毒

むしのなるゝ志ほすもれや殺れ　〃

胡麻三粒をねてを嫁し　寿の釣　〃

待宵辭　　搗中居

そゝまし待宵といふを行きれ対ひうれるをのこうわ

ものや呼そめをもかの伯徒の名を伯つるるきて

思特のう一ゆをまたふんれちちるやと屋ちきの

言ゆをうてれより後ゝをやゝるるて花ゝる

をもゝをきををのゝうしてはやさちるれやゝる

あるゝるるれて或を棋聞徒れふをのをみうれ

四ゝ言をゝ白うをのまれを之の踏ゝろを芸ん未

をゝく宵ゝをゝをれうちゝるを写れ大事ちくをれ

ゆをくをゝいうるやゝなくん或を妓女拝ゝをゝけ

まてまゐらせ侍る夜姫の涙を思ひ槿花一日の
栄を彩まして親のいとめせるそしるを
はくめ数もれたるたるく月を余空孔
雀の青を花をもゆるともゆふらんをれも
廬山はるかまに行れよるのひるとちを今の
世を編屈をもを意地をもまるすをれを
こまちを人をあるををの物の描を邯鄲の枕を
おをををうまし後や月日を百代れをゆ
して行うをもまく旅をるをゆいわまは
を胥の ををゆをて嘉中れうはををうり

ふこう去年の秋を病屋の夜寒ゆ物ちて
はを世の孫をあるをしく降をを陽てし
をを乃光ををを灯のゆるうをきこれうはをを
吳越のおりひを思議ををうをてをるゆを
をまをまほををやを籤をみはをうを
をををををを第をきをむ英昏をり弟我を
塀ちをて供の俗いを浅しのをて天津園と
名ををゆを机弟の横ゆをを燈を搴け
盃を挙て来南弟星ゆ魂を放つ行庭
乃三五挙尤やをり砂ををむ方外の知已

たまゝ雪乃ふるさと花屋敷の
ほとゝぎすなくむとせ物ひるゝよりわれ行良
なるゝ日を不二のみてゝろふるれうる
いまゝ除映の消るさへまるて月を家敷の
階下よりわ玉の井もひの消えとゝ行くはうわ
玉河れ入江ふ新をひして形て絵の臺乃
まゝ家ふ光りをとゝわまをの玉をを毎ひられ
うら殺人墓あをして玉の玉ふ待ふ物ら事
世ゝれるの墓ゝるかをなのら軍れるれ
葛飾を灌分乃ゝはゝをみより古戦場乃

名をゝ行くてはをれとゝを言の乃ゝ
言餘の面新ゝる屋ゝたゝふ物れ地義
乃たゝなのゝむゝ西藻苅てふ古ふ乃
袖をすゝうてゝ見め市川の関を出発てゝる
さゝのゝむを市場の弁天を引ゝみて志乃ゝし
をゝゝ口ゝうら年貢ゝ出ゝてゝまゝゝ三盃れ興ふ
入る方のれ乃ゝれてゝ人ゝとゝゝ丁
欄干ふ葡萄をゝは眼下の渺伝ゝ身の
清光ふ白日をあゝゝふゝら髪を森ふ星く
うめ乃ゝを物ゝゝゝゝ材業の面ゝ乃興福ちハ

おのつからゆひきすれたる鱣の鰭漱田の
三圍をそこらとみゆ待乳山のまへに雑面
すゝむに橋場の渡しの夜さへやかすみつゝ松
隅の田にも上戸の嘴に傍えん夜發坂のなかれ
を喰んを侵して蘭の鼻をとよもし惜しむ
湯葺の家をこうしろさゝつく八町の土手を屠蘇の
ゆるしのあゆみするゝに根岸坂のもと八木
立なかの河を過てさこその野ゝめを三河島の
ひとかさし出て飛渉を尾久のところの泊息ある
す不勝し居るを堕羅て光琳の墨色を

補ひを画て二千里のゆかりをまもれるとし六八
あらかのむかしをとものかゝ寄きの川原に出て柏を
ここ喜佐楼の眺をたのしみ情もよ水なる
たてぬめるも詩をな眼界の妙なるへきを
方寸の胸の泉石をして縦に橋の心を
起こしむにそや見ぬかゝらしもおもわれ
ところは赤壁洞庭をはしめ瀟湘よりも
そのめぐりの唐宋よりかくの明に果て
五湖も三洲も月下の志やかあらし
そうらん楽天の気虚を子美の二痩をあらまし

[illegible]
てよりて拍子をとりて歌を唱ひ四隅を
火の気を絶てあれはやもすれば笠表う
蛍子より移りて咲るねハ山屋こうらう婆さを
うたふよりちかく丈さう猪を礼夜中ちれて
宗謐の[illegible]ほとこと呼ぶ[illegible]にあるに宵鶏を
言ちうる礼鶏子を仕ちて歌をたてく
和尚を伺の茅をもうる礼寵まをあうり
[illegible]老一老人を双紙を拾よ白川を流ち
徐柳を筆をとり法燈をもきる屋を役

[illegible]
[illegible]壹を西の法へ突出して行を弘教言
[illegible]檜[illegible]の中より蛙足八ひ[illegible]
賈嶋の駅馬を[illegible]類扶[illegible]
宵の[illegible]拾敬[illegible]
[illegible]
[illegible]水烟[illegible]
[illegible]を[illegible]轉愈の
[illegible]月に對して[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]を述[illegible]
[illegible]を[illegible]

待とりて字に刻を看守してめ幻の夢しき
を時々西上人を前擔入よ仕ちはく傳れ
箕まる行方の名をたまんやあてしなのつゆ
再開れそうわを刃のうてよ夢ひとらはそ夢
う賊見をそこよ碑亀しまわ

有鑄りみこれ一幸を眼下の京高あて絵ひて
師の今日たくの方れそそるを物見遊躍を
涅槃まるまるとと再事の経緯まるくれひさ
ちちみたてこよ載るものと

あこうをたてみて眼をあきたてみまを
開ゑ眼れ井ま物ちらしと見ゆる
そを空華をいれ人て世中の
あをはのれきての此をそよ
屏しもう西一鼎上人の西駕仙を先園
ま西の寸法ゆ士ま各一句を書しめて
こをもい一巻をそれ是あをまをみゆ
み巻れ法を西上人の御るくれ

人をそのまゝ白筆にうつしたるの
あらしそそる机上の花ひらく時を
この世空華のゆめしくんしの心操
形貌ゆゑ地より眼中に入をみる人こゝろ
入まゝにといへどもそそる机上のあまの花をを
はるるのまゝ樂しうらたゆ

隨齋成美誌

俳諧西類仙